

平成24年度  
第7回岡山市保健福祉政策審議会における主要な意見

- 1 日時 平成24年11月12日（月）14:00～16:11
- 2 場所 岡山市保健福祉会館9階 機能回復訓練室
- 3 出席者 委員8名
- 4 傍聴者 報道1者、傍聴者5者
- 5 議題
  - ・「岡山市健康市民おかやま21（第2次）」（案）について
  - ・「岡山市食育推進計画（第2次）」（案）について
  - ・「岡山市の就学前教育・保育の在り方について」について

6 主要な意見

<「岡山市健康市民おかやま21（第2次）」（案）について>

- ・世界の趨勢から見て禁煙対策を進めるということは、健康を守っていくために非常に大切で重要なことだと思う。
- ・計画の実施にあたっては、地域によって取り上げる課題は異なってくると思う。地域で欠けている課題について、地域性を大切にしながら、実行委員会等においてみんなで協力し合っていくことが大切だと思う。

<「岡山市食育推進計画（第2次）」（案）について>

- ・食育推進計画の考え方と具体的な政策との結びつきが、明確でないように思う。
- ・食事は、将来の基礎的な生活スタイルの基礎を作っていくという意味で、健康の基礎である。食育というのは、生活スタイルや文化を含んだ概念だと思う。
- ・食育の出発点は家庭であるので、若い親に対して、働きかけるような施策が欲しいと思う。具体的には、「子供」や「育つ」というところを協調した内容を盛り込んでどうか。
- ・食べ物の問題というのは極めて個人の嗜好が強い。そのため行政が、個人の領域のところどこまで介入してよいかは難しいと思う。
- ・岡山の食文化を小さい頃から教えられているということは、一つの文化として非常に大切だと思う。従って、食育とは、健康を維持する側面もあるし、文化という側面もある。

<「岡山市の就学前教育・保育の在り方について」について>

- ・総論は了解するが、各論になると駄目だという意見がかなり出ると思う。
- ・保育に対する市民ニーズは、様々あると思うが、全てのニーズを幼保一体化で解決できるか疑問である。解決方法の手段として、幼保一体化があり、その他の手段も最初から示しておいた方がよいと思う。現状では、幼保一体化だけに見えてしまう。
- ・現在ある幼保一体施設の成果、反省を踏まえて、今後の就学前教育・保育を進めることにはなるのではないか。
- ・特別支援教育について、幼保一体化になったときどのようになるのかが心配だ。
- ・パブリックコメントが多数寄せられたということは、どこの地域にどのくらい施設が必要かなど具体的な声が聴けてよかったのではないか。
- ・地域の子育て世代が、不安に思うことがないとは言えないが、その不安を最小限にとどめていく方法をしっかりと考えてほしい。
- ・保育や幼児問題は、地域に密着した問題であるので地域の特性に応じた対策を考えて丁寧な説明を行う必要があると思う。
- ・新しい制度をつくることは反対ではないが、計画の実行にあたってはリスクを出来るだけ最小限にとどめるように慎重にやっていただきたい。